

標準委員会 システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会
第 47 回統合的安全性向上分科会議事録

1. 日 時 2024 年 8 月 1 日 (木) 9:00~12:00
2. 場 所 WebEX による Web 会議
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 村上主査 (東大), 松本副主査 (MRI), 倉本幹事 (NEL),
鈴木委員 (原安進), 竹内委員 (東芝 ESS), 竹中委員 (MHI),
田邊委員 (東電 HD), 中村委員候補 (原電), 古田委員候補 (関電),
廣川委員 (日立 GE), 山田委員 (中部電) (11 名)
(常時参加者) 井原 (中国電; 遅れて参加), 岩田・栗山・近田 (関電), 岩谷 (電中研),
浦野 (原電), 大家・岸根 (NEL), 小野寺 (MRI), 粥川 (北海道電),
久保 (MHI; 候補), 小西 (九州電; 候補; 遅れて参加),
関 (原電エジ^ン; 遅れて参加), 田中 (東北電; 候補), 幅 (電源開発),
東山 (北陸電), 藤井 (電源開発; 候補), 山川 (関電; 候補),
安井 (北海道電; 候補) (19 名)
(傍聴者) 神田 (中国電), 下白石 (九州電), 飛田 (東北電) (3 名)
4. 配布資料
S3SC47-1 第 46 回統合的安全性向上分科会議事録 (案)
S3SC47-2 人事について
S3SC47-3 “原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する実施基準:2023”
の発行
S3SC47-4-1 「原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統
合的意思決定に関する実施基準」の改定について (SC94-7-1)
S3SC47-4-2 IRIDM 標準改定に向けたユーザー質問シートの回答・意見対する意見・
論点
S3SC47-4-3 IRIDM 標準改定に向けたユーザーミーティング議事メモ
S3SC47-4-4 IRIDM 標準の改定方針と検討ポイント (案)
S3SC47-4-5 IRIDM 標準の他規格基準などでの引用の調査・整理
S3SC47-4-6-1 IRIDM 標準改定にかかる文献調査結果 (その 1)
S3SC47-4-6-2 IRIDM 標準改定にかかる文献調査結果 (その 2)
S3SC47-5 統合的安全性向上分科会検討スケジュール
S3SC47-6-1 SC96-5 標準委員会における倫理教育 (2024 年度) — 組織文化と個人の
行動に関するトピックスと課題—

S3SC47-6-1 2024 年度 倫理教育資料の利用について

参考資料：

S3SC47-参考 1 統合的安全性向上分科会名簿

S3SC47-参考 2 安全性向上評価制度に関する原子炉安全専門審査会及び核燃料安全専門審査会の調査審議結果（第 20 回原子力規制委員会 資料 5：令和 6 年 07 月 17 日）

5. 議事内容

(1) 出席者確認

倉本幹事より、議事に先立ち、開始時点で委員 15 名中 11 名（委員候補 2 名を含む）が出席しており、分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

(2) 資料確認

議事次第に基づき、配布資料の確認を行った。

(3) 前回議事録確認（S3SC47-1）

倉本幹事より、資料 S3SC47-1 を用いて、第 46 回分科会議事録（案）の確認を行い、特に異議なく、確定議事録とすることが承認された。

(4) 人事について（S3SC47-2）

倉本幹事より、資料 S3SC47-2 を用いて、以下に示すと通りの委員の退任及び選任、並びに常時参加者の登録解除及び登録が報告され、委員の選任及び常時参加者登録につき異議なく承認された。

- ・委員の退任【報告事項】
 - 松島 英之（日本原電）
 - 長嶋 一史（関西電力）
- ・委員の選任【承認事項】
 - 中村 里美（日本原電）
 - 古田 光法（関西電力）
- ・常時参加者の登録解除【報告事項】
 - 田淵 太郎（北海道電力）
 - 亀山 伸彦（電源開発）
 - 中野 伸佑（三菱重工業）
 - 疇津 正俊（九州電力）
 - 真安 正明（東北電力）
 - 堀内 保（関西電力）
 - 松田 勇（関西電力）

・常時参加者の登録【承認事項】

安井 紳一郎 (北海道電力)
藤井 克也 (電源開発)
久保 登 (三菱重工業)
小西 大輔 (九州電力)
田中 晃 (東北電力)
山川 希人 (関西電力)
黒野 晃平 (中部電力)

(5) PSR+標準改定版の発行 (S3SC47-3)

倉本幹事より、資料 S3SC47-3 を用いて PSR+標準発行について報告がなされた。合わせて、原子炉安全審査会及び核燃料安全専門審査会において PSR+の議論がなされており、安全性向上評価届出における中長期評価実施時には PSR+標準も参考に検討するよう提言がなされていることについても紹介がなされた。

主な議論は以下の通り。

Q：旧版である PSR+指針は廃版済みであるか？

A：廃版済みである。なお S3SC47-3 資料中では旧版の PSR+指針に基づき議論されているが、今回新規発行された PSR+標準については注釈の中で引用されている。

(6) IRIDM 標準改定 改定方向性の議論 (S3SC47-4-1～S3SC47-4-5)

倉本幹事より、資料 S3SC47-4-1～S3SC47-4-5 を用いて、趣意書の概要、ユーザーミーティングでの議論内容及び議論を踏まえた IRIDM 標準改定方針に関する説明がなされた。

ユーザーミーティングにおいては、事業者の幅広い活動に IRIDM 標準が参考とされていることが確認でき、各事業者の IRIDM 標準に対する要望が抽出された。

主な議論は以下の通り。

C：ISO31000 や JEAC4111 と自社 QMS との関係性についてどのように整理されているかについて、簡単なものでよいので紹介いただけるとありがたい。

C：ユーザーミーティングでの事業者取組を伺った際には、現行の IRIDM 標準で示されるフローでは不十分であると感じた。

C：IRIDM 標準の現行タイトルは「原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報を活用した統合的意思決定に関する実施基準」であるが、安全性向上評価届出のための標準のようにも読めてしまう。変更してはどうか。

A：標準タイトルの変更も視野に入れ、議論を行っていくこととする。「1 適用範囲」中における“継続的な安全性の向上”という記載については、変更の必要がないと考える。

C：「1 適用範囲」中に“標準的なプロセス”と記載されているが、プロセスという文言

を使うと、全ての事項を実施しなければいけないという印象を抱く可能性がある。このため、“標準的な方法”などと記載を変更することで、これらの印象を払拭できるのではないか。

C: IRIDM 標準についてリスクコミュニケーションの専門家に相談した際に、キーエレメントの記載の前にリスクコミュニケーションに関する記載をすべきではないかとのコメントを頂戴したことがある。

C: リスクの大小によりどの程度まで深く統合的に判断するかが変わると感じており、これはリスクコミュニケーションにより決定すべきと考える。

C: これらの取組については、現行標準では「7.2.4 問題候補のプロフィールの把握及びスクリーニング」で言及されているが、コミュニケーションの記載再考を含めて今回改定における論点としていく必要がある。

C: キーエレメントの記載については、そのクライテリア等を含めより詳細に記載すべきと感じた。

C: 改定方針については、S3SC47-4-4 に従って、今後具体的な規定の修正方針及びどういった事項を附属書／解説に記載するか、並びにその作業分担などにつき事務局にて検討し、次回分科会に提示して議論をしていくようにする。

(7) IRIDM 標準改定にかかる文献調査結果報告 (S3SC47-4-6-1～S3SC47-4-6-2)

倉本幹事より、資料 S3SC47-4-6-1～S3SC47-4-6-2 を用いて、IRIDM 標準の改定にかかる文献調査結果について説明がなされた。

(8) 今後の予定 (S3SC46-5)

倉本幹事より、資料 S3SC47-4-5 を用いて、今後の予定について説明がなされた。次回分科会は、10月を目途に開催することにし、日時は別途調整をして決定する。

(9) 2024 年度標準委員会倫理教育 (S3SC47-6-1～S3SC47-6-2)

倉本幹事より、資料 S3SC47-6-1～S3SC47-6-2 を用いて、標準委員会倫理教育に関する説明を行った。

本日の教育もふまえて、委員及び常時参加者においては、下記の対応を行う。

- ① 倫理教育動画の視聴
- ② 本年度の倫理教育の内容等への意見、質問、感想の提出

以 上